

序章 調査研究の目的と方法

1. 調査研究の目的

社会保障審議会児童部会「遊びのプログラム等に関する専門委員会」では、昭和60年に国が設置した「こどもの城」（平成27年3月末に完全閉館）が果たしてきた遊びのプログラムを開発・普及する機能・役割を引き継ぎ、遊びのプログラムの全国的な普及・啓発や新たなプログラムの開発、遊びのプログラム等の分析及び評価等について検討している。その専門委員会において、遊びのプログラムのPDCAのプロセスには、子どもの権利の観点から子どもたちが主体的に関わることや地域の協力を得て実施することなどが重要であると指摘されている。

遊びのプログラムの実施については、平成28年度の「遊びのプログラムの開発・普及に係る調査研究」（国の委託事業）により、全国16か所の児童館で、例えば、環境問題を考えるものや貧困家庭の子どもに対する食事の提供、学習支援等の課題に結びつけた取組、災害のあった地域での子どもの意見をまちづくりに生かす取組、子どもと高齢者や外国人の交流促進など、今日の社会ニーズに対応したモデル的なプログラムが実施されたが、それらの効果の検証・分析方法については、今後もさらに検討・研究が必要であることが指摘されている。また、児童館や放課後児童クラブでは、子どもや地域の状況等を踏まえて、日常的に遊びのプログラムを実施しているが、そのプログラムが参加者等にもたらす効果の客観的な検証・分析方法は確立していない状況にある。

このため、本調査研究は、今後の遊びのプログラムの開発・普及に資するため、児童館・放課後児童クラブ等において実施される遊びのプログラムの効果の検証・分析について研究し、その方法等について具体的に提言することを目的とした。

2. 調査研究の方法

本調査研究の目的に基づいて、以下の研究を行った。

(1) 類似事業等の調査

- 児童館等に汎用可能な遊びのプログラムの効果の検証・分析の視点等について考察するため、児童館等に近接する領域での類似する事業に関して整理した。
- 児童館における遊びのプログラムの効果の検証・分析に役立てるために「プログラム評価」について学び、その要点を整理した。

(2) 関係者へのヒアリング等

- ①児童館訪問調査 全国8か所の児童館を訪問し、視察調査と施設長等へのヒアリングを実施した。

【訪問調査協力児童館】

- ・宮城県石巻市子どもセンター「らいつ」
- ・新潟県立こども自然王国

- ・長野県松本市 寿台児童館
- ・愛知県児童総合センター
- ・京都市 明德児童館
- ・神戸市 六甲道児童館
- ・愛媛県久万高原町 NIKO NIKO館
- ・福岡市立中央児童会館「あいくる」

②利用者アンケート調査 上記児童館の協力を得て、利用者（乳幼児・保護者、小学生、中・高校生、他）を対象にアンケート調査を実施した。

種別	配布数	回収数	回収率
児童向け	400	248	62.0%
保護者向け	400	215	53.8%

③元利用者へのヒアリング調査 都内児童館の元利用者2名（高校生と大学院生）にヒアリング調査を実施した。

【ヒアリング調査対象者】（敬称略）

今井 八彩 高校3年（東京都 18）

中村 興史 埼玉大学大学院 教育学研究科 修士課程

【期日・場所】

平成30年（2018年）10月16日 日本薬学会ビル 会議室

【目的】

元利用者にかつての児童館利用の経験や現在振り返って感じるその意味等を語ってもらい、児童館等における遊びのプログラムの捉え方やその効果の検証・分析方法を検討するための素材とする。

【方法】

グループヒアリング

④有識者へのヒアリング調査 児童館関係の有識者3名（専門委員会委員、元専門官、研究会主任研究員経験者等）にヒアリング調査を実施した。

【ヒアリング調査対象者】（敬称略）

植木 信一 新潟県立大学 人間生活学部 子ども学科 教授

大竹 智 立正大学 社会福祉学部 子ども教育福祉学科 教授

柳澤 邦夫 栃木県 上三川町立上三川小学校 校長

【期日・場所】

平成30年（2018年）10月16日 日本薬学会ビル 会議室

【目的】

児童館等における遊びのプログラムの捉え方とその効果の検証・分析方法について助言を得る

【方法】

グループヒアリング

(3) プレ検証（フォーカスグループミーティングによる提言の検証）

本研究会の提言内容（案）について、都内児童館長、児童厚生員、行政担当者によるフォーカスグループミーティングを実施した。

【プレ検証委員】

井出野 彰 世田谷区立等々力児童館 館長
小川 雅之 品川区東大井児童センター 館長
粕川 秀人 町田市児童青少年課 青少年係長
榊原 澄子 墨田区子育て政策課 健全育成アドバイザー
宮村 真紀 三鷹市子ども家庭支援センター のびのびひろば相談員

【期日・場所】

平成31年（2019年）1月22日（火）13:30～16:30

早稲田大学 理工学術院 西早稲田キャンパス 55号館N棟 1階 第2会議室

(4) ヒアリング調査対象児童館関係者への確認

訪問調査でインタビューに応じてくれた児童館長等に本研究会の提言内容を説明し、それぞれの見解を述べてもらった。地域や設置条件などが異なる多様な児童館現場での、提言内容の妥当性と有効性の確認を行った。

【期日・場所】

平成31年（2019年）3月6日（水）14:00～17:00

日本薬学会 長井記念館 貸会議室

3. 調査研究における倫理面への配慮

- 本研究は早稲田大学学術研究倫理憲章に基づいて実施した。
- 研究における倫理面への配慮として、ヒアリング調査及び研究員による報告は、事前に、調査及び報告の趣旨とヒアリング及び報告の内容について調査対象者への説明を行い、同意を得て実施した。ヒアリング結果の報告資料は、提供者の同意を得て掲載することとした。
- アンケート調査は、調査結果を調査者が当初設定した目的以外に使用されないよう配慮した。
- 報告書作成に際しては、利用者データや事例等について研究倫理上必要な手続きを経ていくこと及び記述においてプライバシーが侵害されないようにすることに留意した。

4. 調査研究の体制

(1) 本調査研究の実施体制

(敬称略)

氏名	所属	WG
主任研究員		
岩田 紳也	早稲田大学 国際情報通信研究センター 客員主任研究員	○
研究員		
坂井 滋和	早稲田大学 国際情報通信研究センター 所長	
安部 芳絵	工学院大学 教育推進機構 教職課程科 准教授	◎
安田 節之	法政大学 キャリアデザイン学部 准教授	
井垣 利朗	八王子市立中野児童館 館長	○
鈴木 一光	一般財団法人 児童健全育成推進財団 理事長	○
研究協力者		
菅沼 睦	早稲田大学 国際情報通信研究センター 客員主任研究員	
野中 賢治	一般財団法人 児童健全育成推進財団 企画調査室長	○
野澤 秀之	一般財団法人 児童健全育成推進財団 企画調査室次長	○
アシスタント		
中村 興史	埼玉大学大学院 教育学研究科 修士課程在籍	○

(◎は作業部会座長、○は作業部会委員)

(2) 研究会・ワーキング委員会の開催概要

① 研究会 (本会議)

回	日時	場所
第1回	2018 (平成 30) 年 8 月 21 日 (火)	日本薬学会 長井記念館 貸会議室
第2回	2018 (平成 30) 年 12 月 25 日 (火)	早稲田大学 55 号館 N 棟 会議室
第3回	2019 (平成 31) 年 3 月 4 日 (月)	TKP ガーデンシティ渋谷 会議室

②ワーキング委員会

回	日時	場所
第1回	2018（平成30）年7月2日（月）	児童健全育成推進財団 会議室
第2回	2018（平成30）年7月12日（木）	練馬区平和台児童館
第3回	2018（平成30）年7月20日（金）	児童健全育成推進財団 会議室
第4回	2018（平成30）年7月31日（火）	港区麻布子ども中高生プラザ
第5回	2018（平成30）年9月7日（金）	児童健全育成推進財団 会議室
第6回	2018（平成30）年10月2日（火）	児童健全育成推進財団 会議室
第7回	2018（平成30）年10月11日（木）	児童健全育成推進財団 会議室
第8回	2018（平成30）年11月27日（火）	児童健全育成推進財団 会議室
第9回	2018（平成30）年12月13日（木）	児童健全育成推進財団 会議室
第10回	2018（平成30）年12月18日（火）	児童健全育成推進財団 会議室
第11回	2019（平成31）年1月15日（火）	児童健全育成推進財団 会議室
第12回	2019（平成31）年1月28日（月）	児童健全育成推進財団 会議室
第13回	2019（平成31）年2月14日（木）	児童健全育成推進財団 会議室
第14回	2019（平成31）年3月1日（金）	児童健全育成推進財団 会議室
第15回	2019（平成31）年3月7日（木）	児童健全育成推進財団 会議室

5. 成果の公表方法

本調査研究の成果は、早稲田大学のウェブサイトにおいて公開する。また、研究成果の普及のために、本研究をともに実施し、全国の児童館にネットワークを持つ児童健全育成推進財団のウェブサイトでも公開する。